令和２年度　尾瀬傷病事故統計

（尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター傷病記録等から）

（傷病事故に消防と連携して救助活動を行う）

令和３年３月

公益財団法人　尾瀬保護財団

目　　次

１　入山者数の状況 1

２　傷病事故の発生状況 2

（１）年度別発生状況 2

（２）地区別発生状況 3

（３）原因別発生状況 3

（４）時期別発生状況 4

（５）月別発生状況 4

（６）年齢別・男女別発生状況 4

（７）傷病者の居住地別発生状況 5

（８）グループ人数別発生状況 5

（９）傷病事故の通報状況 6

３　救助活動 6

（１）救助出動状況 6

（２）ヘリコプター要請状況 7

1　入山者数の状況

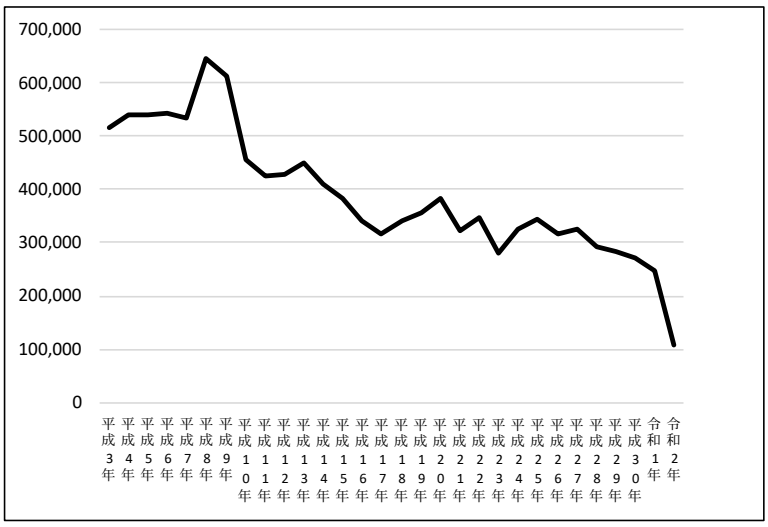
尾瀬が利用できる季節は道路開通後であり、おおよそ５月の大型連休後から１０月末までであるが、同期間に環境省が各登山口に登山者カウンターを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者は平成２年度から平成７年度まで５０万人台前半で推移し、平成８，９年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬の紹介により６０万人台前半に増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系への影響が懸念されたが、平成１０年度には景気低迷と週末の悪天候から入山者数は約４６万人に減少し、平成１４年度までに４０万人台で推移し、平成１７年度には平成元年度からの計測以来最低の約３１万８千人となった。

平成２０年度以降は尾瀬国立公園の拡張エリアを含めての数値だが、平成２３年度には東日本大震災やそれに伴う原子力発電所の事故、また同年７～９月にかけて尾瀬や周辺の集中豪雨による木道流失・通行止め等が影響し、28 万 1 千人と計測以来初の３０万人を下回る結果となったものの、その後平成 27 年度まで 30 万人前半をほぼ横ばいで推移している。

令和 2 年度は、世界的な新型コロナウィルス(covid 19)の蔓延により、緊急事態宣言が発令され、尾瀬地域も 5 月 22 日まで道路閉鎖され、実質入山ができない時期となった。例年入山者の多い 6 月、7 月も新型コロナウィルスの影響により入山者は増えなかったが、昨年土日及び連休に雨が多かった 9 月、10 月は GOTO トラベルの影響もあり若干増加したが、全体としては激減といってよい程減少した。

入山者数の推移

年度	入山者数（人）	対前年比
平 成 3 年	515,090	
平 成 4 年	539,790	104.8%
平 成 5 年	540,264	100.1%
平 成 6 年	542,058	100.3%
平 成 7 年	534,196	98.5%
平 成 8 年	647,523	121.2%
平 成 9 年	614,317	94.9%
平成10年	455,409	74.1%
平成11年	425,807	93.5%
平成12年	428,446	100.6%
平成13年	448,041	104.6%
平成14年	409,942	91.5%
平成15年	384,251	93.7%
平成16年	341,558	88.9%
平成17年	317,847	93.1%
平成18年	341,369	107.4%
平成19年	354,901	104.0%
平成20年	381,700	107.6%
平成21年	322,800	84.6%
平成22年	347,000	107.5%
平成23年	281,300	81.1%
平成24年	324,900	115.5%
平成25年	344,200	105.9%
平成26年	315,400	91.6%
平成27年	326,100	103.4%
平成28年	291,860	89.5%
平成29年	284,390	97.4%
平成30年	269,700	94.8%
令和1年	247,700	91.8%
令和2年	106,922	43.2%



尾瀬の入山者数の推移（環境省のデータから作成）

2　傷病事故の発生状況

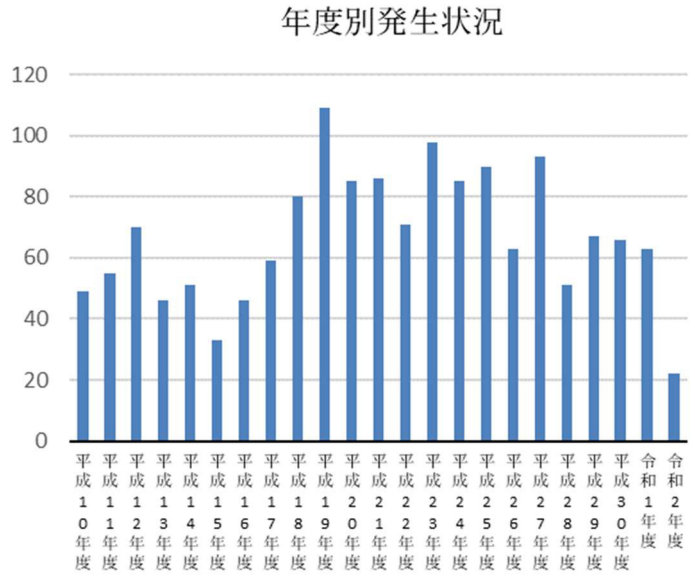
令和２年度に公益財団法人尾瀬保護財団（以下、当財団とする）が管理を受託した尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）及び尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）において、職員が対応を行ったものについて作成した。

（１）年度別発生状況

令和 2 年度に当財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター及び尾瀬沼ビジターセンター職員が対応した傷病事故は２２件で昨年の 1/3 程度であった。

年度別発生状況

区分 年度	発生件数 （件）	傷病者内訳				
		死亡	病気	行方不明	負傷	その他
平成10年度	49	4			45	
平成11年度	55	1			54	
平成12年度	70	2			68	
平成13年度	46				46	
平成14年度	51	2			49	
平成15年度	33	1			32	
平成16年度	46	1			45	
平成17年度	59				59	
平成18年度	80	3			77	
平成19年度	109	1			94	14
平成20年度	85	1			73	11
平成21年度	86	1			70	15
平成22年度	71				58	13
平成23年度	98		4		69	25
平成24年度	85	1	3	1	62	18
平成25年度	90				77	13
平成26年度	63				61	2
平成27年度	93		4		69	20
平成28年度	51		3		41	7
平成29年度	67	1	9	2	51	4
平成30年度	66	1	6		59	
令和1年度	63		5		58	
令和2年度	22	1			21	



（2）地区別発生状況

地区別では鳩待峠～山ノ鼻間が一番多く、三平峠～大江湿原、沼山峠～大江湿原、沼尻～見晴が同件数発生した。

鳩待峠～山ノ鼻の事故件数が全体の 18.2％となり、前年度（27％）より減少した。入山者が減少したため傷病者数は減少したが発生場所は分散した。

地区別傷病発生件数（R2年5月～10月）

区分／地区	発生件数（件）	発生比率	傷病者内訳					(参考)令和1年度
			死亡	病気	行方不明	負傷	その他	
鳩待峠～山ノ鼻（VC周辺含）	4	18.2%				4		17
尾瀬ヶ原（研究見本園含）	1	4.5%				1		9
大江湿原～尾瀬沼北岸（VC周辺含）	2	9.1%				2		15
三平下～大江湿原	3	13.6%				3		4
三平下～尾瀬沼南岸	1	4.5%				1		1
沼山峠～大江湿原	3	13.6%				3		2
大清水～尾瀬沼	1	4.5%				1		1
沼尻～見晴	3	13.6%				3		2
見晴～御池（平滑ノ滝、三条ノ滝含）								
至仏山	1	4.5%		1				2
燧ヶ岳	2	9.1%				2		5
アヤメ平								2
その他	1	4.5%				1		
不明								3
合計	22	100%		1		21		63

（3）原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道での転倒・転落による事故が 15 件で、全体の 71.4％となり、前年度の 61.9％から増加した。全体の 3/4 近くを占めており、木道整備区間が多い尾瀬国立公園の特徴を示している。原因は写真撮影や景色を眺めるなどよそ見による足の踏み外し、雨や雪で滑ったことによる転倒等様々である。木道は、高架や段差・階段になっている場所もあり、ちょっとした気の緩みが命に関わる大事故にもつながりかねない。また、疲労などで歩行困難になる事例も少なからず見受けられるが、日常生活での体調管理や無理な行程に起因する場合も多く、ゆとりをもった行動と装備は不可欠である。

事故の多くが、入山者の気の緩みや不注意から生じており、尾瀬利用者への注意喚起を行う等の呼びかけに力を入れていく必要がある。

原因別発生状況（R2年5月～10月）

区分／原因	発生件数（件）	傷病者内訳							(参考)令和1年度
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
					自力下山	搬送	自力下山	搬送	
木道上の転倒	15				13	2			39
歩道上の転倒	2				1	1			3
病気									4
疲労・低体温	2		1		1				1
落石									
道迷い									
雪崩・雪渓崩落									
落雷									
徒渉失敗									
その他	2				2				14
不明									2
合計	21		1		17	3			63

＊疲労・低体温：体調不良やふらつきなど　＊自力下山か搬送かは救助隊出動の有無

（4）時期別発生状況

今シーズンは、4月～6月の入山者が減少した影響で傷病者は0件だった。入山が戻った秋には木道上で滑って転倒するケースが多かった。雨や霜などで木道が滑りやすくなっている場合には、特に注意が必要である。

時期別発生状況（R2年5月～10月）

区分／時期	発生件数（件）	傷病者内訳							(参考)令和1年度
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
					自力下山	搬送	自力下山	搬送	
春(4･5･6月)									22
夏(7･8月)	8		1		6	1			26
秋(9･10･11月)	13				11	2			15
計	21		1		17	3			63

（5）月別発生状況

月別では、10月の発生件数が多く、原因は木道での転倒・転落が多くを占めている。よそ見や写真撮影、会話に夢中になりすぎた事なども大きな要因と考えられる。また、軽装や無理な行程などによる、木道上での転倒・転落負傷も原因となっていると考えられる。

月別発生状況（R2年5月～10月）

区分／月	発生件数（件）	傷病者内訳							(参考)令和1年度
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
					自力下山	搬送	自力下山	搬送	
4月									
5月									8
6月									14
7月	5				5				15
8月	3		1		1	1			11
9月	4				3	1			6
10月	9				8	1			9
11月									
合　計	21		1		17	3			63

（6）年齢別・男女別発生状況

年齢別では、３０代以下が22.7%、４０代以上が77.3%と、中高年の傷病事故割合が高い。この年代は救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。

年代別・性別発生状況

区分／年齢	発生件数（件）	令和2年					令和元年				
		男		女		男女計（%）	男		女		男女計（%）
		（件数）	比率（%）	（件数）	比率（%）		（件数）	比率（%）	（件数）	比率（%）	
20　歳　未　満	2	2	18.2%		4.5%	22.7%		3.2%	4	9.5%	12.7%
20　代							1				
30　代	3	2		1			1		2		
40　代	2	1	36.4%	1	40.9%	77.3%	4	38.1%	4	44.4%	82.5%
50　代	8	4		4			6		6		
60　代	4	1		3			9		11		
70　歳　以　上	3	2		1			5		7		
不　明							3	4.8%			4.8%
合　計	22	12	54.5%	10	45.5%	100%	29	46.0%	34	54.0%	100%
		22					63				

（7）傷病者の居住地別発生状況

例年同様に、東京都・埼玉県・神奈川県を中心とした関東圏が大半を占めている。尾瀬入山者の居住地別割合をそのまま反映した結果と思われるが、気軽な登山と油断してしまうことも原因と考えられ、時間や体力を考慮した計画と事前の準備が必要である。

都道府県別

区分 / 都道府県	傷病者内訳							合計	(参考)令和1年度
	死亡	病気	行方不明	負傷		その他			
				自力下	搬送	自力下	搬送		
福島県		1		2				3	1
茨城県				1				1	1
群馬県				1				1	3
埼玉県				2	2			4	7
千葉県				1				1	6
東京都				3				3	7
神奈川県				3				3	6
新潟県									1
福井県									1
静岡県				1				1	
愛知県									2
三重県									2
大阪府					1			1	1
鳥取県									1
岡山県									1
広島県									1
福岡県									1
海外									1
不明				3				3	20
合計		1		17	3			21	63

（8）グループ人数別発生状況

前年度はグループでの事故が多かったが、本年度は単独の事故発生率が増加する結果となった。ツアーについては、ガイドによる安全管理ができているツアーもあるが、ガイドも添乗もないツアーもあり、安全管理に課題もある。

傷病事故発生時に手当やレスキューを真っ先に行うのは、同行者であることが多いが、重度な傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難であることから、単独行は十分な注意が必要である。

区分 / 形態	発生件数（件）	傷病者内訳							比率（%）	(参考)令和1年度
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他			
					自力下山	搬送	自力下山	搬送		
単独	14				13	1			66.7%	19
グループ	7		1		4	2			33.3%	25
ツアー										5
学校										1
不明										13
合計	21		1		17	3			100%	63

＊グループ：同行者が1名以上の場合

（9）傷病事故の通報状況

今年度は通報のすべてが、傷病者本人がビジターセンターや山小屋へ来所し、口頭で行っている。尾瀬では、大半が携帯電話の通話エリア圏外のため、最寄りの有人施設に駆け込む必要があり、そこからビジターセンターへ連絡が入ることもある。

区分 / 通報方法	通報者					合計	比率（%）	(参考)令和1年度
	本人	同行者	他人	山小屋	その他			
口頭	2	3	1			6	100%	98%
携帯電話								2%
電話								
無線								
その他								
合計	2	3	1			6	100%	100%
比率	33%	50%	17%			100%		

＊山小屋・救助隊：ビジターセンター職員対応のものも含める

3　救助活動

（1）救助出動状況

ビジターセンター職員は救助隊の緊急要員としても出動している。

傷病者対応時の出動状況

出動区分 / 年度	消防警備隊	救助隊	ビジターセンター	一般	合計	発生件数（件）
平成10年度	8	33	16		57	49
平成11年度	9	28	27		64	55
平成12年度	11	18	45		74	70
平成13年度	9	21	22		52	46
平成14年度	9	14	31		54	51
平成15年度	8	10	19		37	33
平成17年度	16	12	35		63	59
平成18年度	17	22	77		116	80
平成19年度	10	18	106	2	136	109
平成20年度	15	12	68		95	85
平成21年度	16	18	86	1	121	86
平成22年度	21	22	69		112	71
平成23年度	15	15	98		128	98
平成24年度	16	19	85		120	85
平成25年度	7	16	87		110	90
平成26年度	12	12	63		87	63
平成27年度	19	24	68	1	112	93
平成28年度	9	8	39		56	51
平成29年度	24	9	58		91	67
平成30年度	11	8	61		80	66
令和1年	14	6	63		83	63
令和2年	3		21		24	22

＊消防：防災ヘリを要請した件数(担架搬送も含める)

＊救助隊：近隣の関係者が出動した人工

＊ビジターセンター職員が関与した人工

（2）ヘリコプター要請状況

今年度のヘリコプター搬送はゼロ件だった。新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、シーズン当初よりヘリコプターを使用した救助は実施しない旨通達があった。

防災ヘリコプター要請状況

年度＼出動区分	依頼件数	負傷者救助	病人等救助	行方不明捜索	遺体収容	収容人数計
平成10年度	3	3				3
平成11年度	5	5				5
平成12年度	7	5	1	1		7
平成13年度	6	6				6
平成14年度	6	4	1	1		6
平成15年度	6	4	1			5
平成16年度	7	7				7
平成17年度	12	8	4			12
平成18年度	8	3	3		2	8
平成19年度	11	6	4			10
平成20年度	13	10	3			13
平成21年度	9	7	2			9
平成22年度	17	14	3			17
平成23年度	14	10	4			14
平成24年度	15	11	2	1	1	15
平成25年度	7	7				7
平成26年度	9	8	1			9
平成27年度	19	14	5			19
平成28年度	5	4	1			5
平成29年度	13	7	5		1	13
平成30年度	11	5	6			11
令和1年	6	6				6
令和2年	－	－	－	－	－	

※尾瀬山の鼻ＶＣ、尾瀬沼ＶＣで対応した件数